



2013年

9月21日(土)~10月19日(土)

月~土 午前9時~午後6時
日、祝 午前9時~午後5時

光島貴之展

さわるためにだけ
存在するものがあったらいい

関連イベント

対談「触って感じるアレコレ」

光島貴之 (アーティスト) × 服部正 (本学教員)

9月22日(日) 午後2時~4時 甲南大学 5-11教室

Galerie
ギャラリー・パンセ
Pensée

甲南大学(5号館1階)
ギャラリー・パンセ
〒858-8501 神戸市東灘区岡本8-9-1



光島貴之展—さわるためにだけ存在するものがあるもいい

会期 9月21日(土)～10月19日(土)

開場時間 月～土 午前9時～午後6時 日、祝 午前9時～午後5時 会期中無休

展覧会趣旨

甲南大学では毎年、国内外で活躍している作家による展覧会を行っています。今年は「光島貴之展—さわるためにだけ存在するものがあるもいい」を開催いたします。京都出身の光島貴之(みつしま・たかゆき 1954～)さんは、体験型の作品や触覚に関するワークショップなどで活躍中です。今回は、4点の旧作とともに、ギャラリーの空間にあわせた新作のインスタレーションを展示します。実際に触ることのできる作品を通して、触覚文化について考えていただきたいと思います。

制作に寄せて

全盲であるぼくが作品を発表するようになってかれこれ20年近くになる。最近ある男性に「さわるためにだけ存在するものって何だろう？」と質問すると、「そりゃあ、アレに決まってるやろう」といういやらしいような声が聞こえて来た。

これを一人の男性の他愛ない発言として見過ごすことはできない。そのような言い回しによって視覚障害者の「さわる」という観察や認識、感受性がどれほどおとしめられてきたか。ぼくは、そのような一般的な価値観によって何度も何度も繰り返し行き詰まりを経験してきた。今回の作品は、そのようなもはやぼくの中にまで染み込んできている「さわる=いやらしい」という美意識を、根底から覆したいと思いながら制作を始めた。点字は、さわるためにだけ意味を持っていると言っても過言ではないだろう。そのような価値観を持った作品を提示したいと思っている。

光島貴之

関連イベント

対談「触って感じるアレコレ」光島貴之 × 服部正

9月22日(日)午後2時～午後4時 511教室(ギャラリー横)

<図版キャプション>

左から

不安な気分

2012年、木製パネル、ミクストメディア 900×900mm

重い空気、あるいは違和感

2012年、木製パネル、ミクストメディア 900×900mm

今にも飛上がりそうなきうきした気分

2012年、木製パネル、ミクストメディア 900×900mm

幸せなところに戻っていく

2012年、木製パネル、ミクストメディア 900×900mm



Galerie
ギャラリー・パンセ
Pensée

甲南大学 (5号館1階) 〒658-8501 神戸市東灘区国あ 8-9-1



会場 ギャラリー・パンセ

観覧料金 無料

協力 株式会社ナカダイ

お問合せ先

078-435-2572(服部)

078-435-2675(文学部事務室)